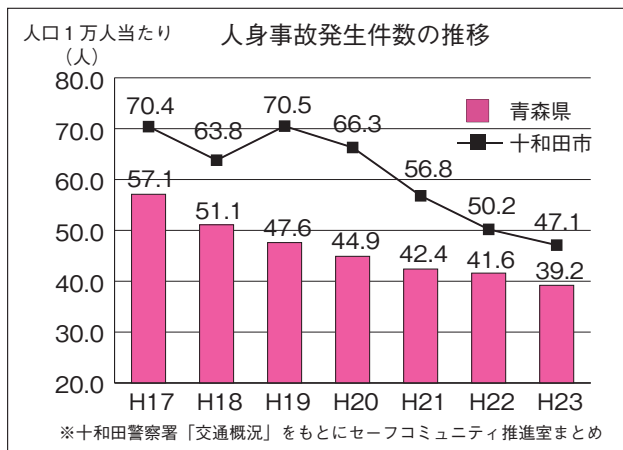




一人ひとりがセーフコミュニティの一員 みんなで交通事故を予防しよう

十和田警察署の統計では、市内で発生した人身事故は年々減少していますが、県全体と比べて多い状況です（下表参照）。冬道は積雪、路面凍結などにより滑りやすく、わだちができ、道路が狭くなるために、スリップ事故や視界不良による事故が多発します。自動車を運転するときは十分に注意しましょう。また、同乗者も運転手に安全運転を呼び掛け、みんなで交通事故を予防しましょう。



運転手のみなさんへ

▶十分な車間距離を

冬道では、スリップによる追突事故が多発しますので十分な車間距離を保ちましょう。



▶ソフトブレーキを

車輪をロックさせない「ソフトブレーキ」操作が肝心です。路面や周囲の状況をしっかり確認して、早めの危険予知、早めのブレーキングを心掛けましょう。

▶カーブでは「スロー・イン」を

カーブでのブレーキングは禁物です。カーブの手前で減速する「スロー・イン」を心掛けましょう。

▶スリップしたときはアクセルを戻す

横滑りなどのスリップが発生したときはアクセルを戻し、ブレーキを踏まないようにしましょう。

歩行者のみなさんへ

▶運転手が気付いていない場合も

降雪などの視界不良により自動車の運転手は歩行者に気付いていない場合があることを自覚しましょう。

▶危険予知を

冬道では自動車がスリップする場合があります。また、歩行中に滑って転倒し、車道にはみ出す場合もありますので、常に危険予知を心掛けましょう。また明るい色の服装や反射材などを利用して、目立つようにしましょう。



十和田産品、わたしたちが作ってます



おいしい十和田
ソムリエが
インタビュー!

☎十和田産品販売戦略室 ☎6743

第14回

こやまいし たつろう
小山石 達郎 さん



Profile

十和田市黒毛和種改良組合長を4期（平成11年度～平成22年）務め、優良繁殖雌牛の導入などで和牛産地の確立に貢献。その成果が認められ、平成23年十和田市農業賞を受賞。平成24年10月には、長崎県で開催された「全国和牛能力共進会」において全国和牛登録協会から登録事業功労者として表彰された。

現在、繁殖牛、肥育牛、子牛を合わせて約140頭を飼育。

***経営に牛の飼育を取り入れたのはいつですか。**

牛の飼育は、30代で経営者になったとき、堆肥をつくるため短角牛を3頭飼ったのが始まりです。翌年、繁殖牛の飼育に切り替え、その後黒毛和牛に移行しました。昭和50年には県のチャンピオン賞を受賞し、全国大会に出場しました。

***十和田市黒毛和種改良組合長になってからの取り組みは何ですか。**

和牛の改良のため、きめ細やかな霜降りや味の良さに定評のある宮崎の「安平」や鹿児島島の「安福久」の系統を買い入れました。地元の農家に良い系統の牛が広がればという思いがありました。産地として評価は高まり、1頭100万円クラスの雌牛を全国各地に売りました。

また、減反になった水田の作付けを補うため、平成12年から稲ホークロップサイレージ（※）を導入し、飼料の質の向上とコスト削減に取り組んでいます。

***良い牛を見分ける秘訣を教えてください。**

肉牛は系統と発育が重要です。組合の会員などには「自分の牛が出品されていてもいなくても、とにかく共進会（牛の品評会）に足しげく通い、観察することが勉強だ」と伝えていきます。

***今後の取り組みや展望についてお聞かせください。**

息子の世代が立派な農業経営者として育ってほしいと思います。わたし自身も日々努力して、今日より明日は良くなるという想いで頑張っています。

地域の農業については、使われていない農地を利用して飼料用稲の作付けを行うことは、効率のよい経営に繋がるので、取り入れる畜産農家が増えてほしいことですね。

※稲ホークロップサイレージ…稲を発酵させてつくる牛の飼料のこと。転作田で効率的に作付けでき、輸入飼料などの購入よりもコストが低減できます。